

## 投票率向上への具体的提案

### 提案にあたって

若い世代の方々が政治への関心が薄く、多くが他人事と受け止めている理由の1つは、議会や議員を身近に感じられないことが挙げられる。議会として、小中学生の時代に京都市会に触れてもらう機会を提供する意義は大きいと考え、具体的に2つの試みを提案させて頂きたい。

### 2つの提案

- ① 小学5,6年生と中学2年生対象の「子ども議会」を開催する
- ② 小中学生の議会質疑の見学を呼びかける。具体的には予決算特別委員会の市長総括質疑の傍聴はどうか

### 提案①

- ア 小中学生を対象とする理由は、高校生や大学生は投票権開始年齢に重複または近接しており、議会や議員の関与が誤解を招く懸念がためであり、小中学生ならば保護者が同伴するので、これらの方々にとって議会に触れるときっかけとなるからである。
- イ 市会事務局が主催し企画運営に携わり、市教委が共催し学校側の窓口を担当することとする。市教委側は府の子ども議会等のノウハウを活用する。
- ウ 市内4～6の小中学校が参加し、事前学習を進めテーマを決定する。各班の担当に議員がついて助言し、行政執行部局への質問を作り上げる。(鳥取方式)
- エ 開催時期は府議会と同じ夏休み期間で良いのではないか。4月の新学年から約4か月の準備期間となり、夏休み自由研究の一環ともなる。(府議会と同じ時期)
- オ 当日は各班20～30分質問し、市長・副市長答弁も30分以内とする。テーマは極力重ならないように工夫する。事務局と現場の学校との連携が重要。
- カ 家族や一般市民に加え、議員も傍聴するよう呼びかける。終了後は担当議員と小中学生の反省会も実施する。

### 提案②

- ア 28年度は上記①の実施は時期尚早の可能性があるので、まずは機運醸成を図るべく、議会質疑の傍聴を積極的に募ってはどうか。
- イ 傍聴時間は2時間が限界と思われる。代表質問では1人の議員の質疑しか見られないので、市長総括質疑であれば3～5人の1問1答の質疑を体験でき、ネット中継ではない臨場感を得られるのではないか。